



令和4年度 事業報告書

社会福祉法人 北海道共同募金会

はじめに

令和4年度に至るも感染症の流行が続くとともに、記録的な物価上昇が我々の生活に不安な影を落とす中、相互扶助を旨とする共同募金は76回目の運動を迎え、道民のご理解と温かなご協力のもと、10月から3月までの半年間にわたる運動期間を無事終了し、人同士の接触が制限される困難な状況にあっても、たゆまず取り組まれる数多くの民間福祉活動を、助成を通じて支えることとなった。

パンデミックは共同募金活動にも深刻な影響を及ぼし、お寄せいただく寄付金の規模もかつてないほどの大幅な縮小が見られてきたが、このたびの市町村共同募金委員会の一般募金の取り扱いでは、数多くの町で前年実績を上回る結果が残され、ポストコロナを迎えようとする社会の変化とともに、人々の心の内に絶えることなく息づくたすけあいの精神の尊さが感じられた。

中でも街頭やイベントなどでの啓発活動は規模の縮小や中止を余儀なくされてきたところ、ここにきて復調の兆しがうかがえ、共同募金運動にある種の活気をもたらしているが、そのようにして、あまねく、住民にたすけあいを呼びかけることになる共同募金の活動の特性を活かし、道民相互の関わりづくりにも資することができた。

全体として共同募金への寄付が減少を続けるなかにあって、福祉活動の現場からの資金ニーズには依然として旺盛なものがあるが、共同募金はそうした地域における福祉活動の財源醸成という重要な役割を担っており、今後も積極的にその役割を果たしていくことが求められている。

そのようにして道民から共同募金に寄せられた寄付金は、総額で6億7千万円弱もの規模となり、全道の福祉団体やNPO、ボランティアグループ、福祉施設や事業所などが取り組む数千件もの活動に幅広く助成を行なった。

その他、民間福祉資金として、共同募金以外の寄付金の受け入れや公益信託の運用による助成、中央競馬馬主社会福祉財団助成事業の申請取りまとめと推薦業務など、各種資金の総合調整を行い、共同募金事業とあわせて本道の社会福祉の増進に寄与することとなった。

目 次

I 共同募金事業

| | |
|------------------------|---|
| 1. 事業概要 | 1 |
| 2. 計画（目標額）並びに募金実績・助成 | |
| (1) 一般募金の計画・実績・助成 | 2 |
| (2) 歳末たすけあい募金の計画・実績・助成 | 3 |

II 本年度の主な広報事業

| | |
|----------------------------------------|----|
| 1. 「赤い羽根サポーター宣言」事業 | |
| (1) 道内スポーツチームとのタイアップ | 4 |
| 2. 「piapro」とのタイアップ「支えあうココロ、未来へ。」プロジェクト | 6 |
| 3. 「僕のヒーローアカデミア」とのタイアップ事業 | |
| 4. 株式会社ブシロードの協力による各種タイアップ事業 | |
| 5. 各種イベント開催に伴う募金ブース設置・PR活動 | 7 |
| 6. 飲料メーカーとのタイアップ事業 | |
| 7. ポスターの掲出 | |
| 8. マスコミ等各種媒体を活用した広報事業 | |
| 9. 各種啓発イベントの実施・関係機関団体への情報提供 | 9 |
| 10. 広報先発行事の実施 | |
| 11. 市町村域での広報（募金資材の提供・広報資材の貸出） | 10 |
| 12. ホームページによる情報提供 | |

III 顕彰の実施

| | |
|-----------------------|----|
| 1. 本会会長表彰 | 10 |
| 2. 中央共同募金会会長表彰 | 11 |
| 3. 高額寄付者に対する厚生労働大臣感謝状 | |
| 4. 共同募金運動功績者に対する感謝状 | |

IV 緊急支援及び災害対応

| | |
|-------------------|----|
| 1. 災害見舞金の助成 | 11 |
| 2. 災害被災地（道内外）への支援 | 12 |

V 各種民間福祉資金の総合調整

| | |
|---------------------------------|----|
| 1. 共同募金以外の特定指定寄付金の受け入れ並びに助成について | 13 |
| 2. 寄託寄付金の受入れ並びに助成について | |
| 3. 公益信託助成金の助成について | 13 |
| 4. 中央競馬馬主社会福祉財団助成事業への協力 | |
| 5. 日本テレビ24時間チャリティー委員会への業務協力 | |

VI 会務運営（法人運営・専門委員会）

| | |
|----------------------------------|----|
| 1. 法人運営 | 14 |
| (1) 理事会・評議員会の開催 | |
| (2) 評議員選任・解任委員会の開催 | 15 |
| (3) 正副会長会議の開催 | 15 |
| (4) 監査（監事監査／外部監査）の実施 | |
| 2. 専門委員会 | 16 |
| (1) 配分委員会の開催 | |
| (2) 広報企画委員会の開催 | |
| (3) 共同募金運動推進対策委員会の開催 | 18 |
| (4) 民間社会福祉資金要望事業推薦委員会の開催 | |
| (5) 歳末たすけあい運動推進会議の開催 | |
| (6) 公益信託運営委員会の開催 | 19 |
| 3. 共同募金委員会との連携強化と運営整備の促進 | 20 |
| (1) 町村共同募金委員会関係者研究協議会の開催 | |
| (2) 共同募金実務担当者 新任研修会の開催(オンライン) | |
| (3) 市町村共同募金委員会関係者研究協議会の開催(オンライン) | |
| (4) 共同募金実務担当者研究協議会の開催（オンライン） | 21 |
| (5) 地方・市共同募金委員会事務局長連絡協議会の開催 | |
| (6) 道内外への研修・連絡会、その他会合等 | |

VII 新型コロナウイルス感染拡大への対応

| | |
|-----------------------------------------|----|
| 1. 赤い羽根 新型コロナ感染下の福祉活動応援全国キャンペーンによる助成の実施 | 23 |
|-----------------------------------------|----|

VIII 公告・公表等

| | |
|----------------------|----|
| 1. 公告一目標額の届出、運動実績の公表 | 24 |
|----------------------|----|

I 共同募金事業

1 事業概要

社会福祉法(第112条から124条)に規定されている共同募金事業は、「一般募金(赤い羽根募金)」と「歳末たすけあい」の2つの募金からなる民間運動として、毎年、10月1日に厚生労働大臣の告示により「共同募金運動」の期間が示された後、全国一斉に展開される。民間福祉財源確保(地域福祉推進)を目的として実施する、国内最大の募金運動である。

令和4年度の北海道における共同募金運動の期間は、令和4年10月1日～令和5年3月31日と定められているが、各市町村共同募金委員会での取り扱いは従前どおり12月31日までとし、以降の期間は北海道共同募金会本部を中心に、道民に向けた広報活動を兼ねたイベント募金などの取り組みを進めたが、コロナ禍により厳しい情勢のもと、全体の募金実績では令和3年度に引き続き前年を下回る結果となった。

共同募金運動を始めるにあたっては、道内179市町村それぞれの区域内の民間福祉事業に必要な資金計画を、使途計画(募金の使いみちの計画)として立案し、その集積を目標額として掲げることが、法律上義務づけられている。

これは、変貌していく我が国の社会経済情勢のもと、地域は様々な困り事を抱えるようになるとともに、課題解決のための活動に要する資金ニーズも高まりを見せている中、地域福祉の推進を目的として、住民相互のたすけあいを基調に、住民自らが参加する福祉コミュニティづくりへの参加を促し、だれもが住みなれた地域で安心して暮らせることができる社会を実現する多様な活動を、財源面から支援する役割を果たすための仕組みである。

募金実績が確定した後、目標額と差異が生じた場合には、あらためて個別の事業内容等を慎重に検討し、助成額を決定することとなるが、要望される福祉活動や事業の決定に際し、公平性・公正性を担保するため、道内各分野の有識者からなる「配分委員会」による慎重な審査や協議が行われている。

当該年度寄せられた募金は令和5年3月に開催の本会評議員会において助成決定がなされた後、本会、または市町村共同募金委員会を通じて、助成先に助成金の交付を行った。

2 計画(目標額)並びに募金実績・助成

計画(目標額)は、各地域の社会経済状況等を勘案し、必要最小限の福祉活動財源確保を図るべく、一般募金は、前期までと比較し約 1.3%減となる、6億1,230万9,550円を設定し、歳末たすけあいは、『地域歳末計画』分として、前期までと比較し約 2.4%減となる1億8,783万9千円の使途計画(目標額)を設定した。

募金実績は、本年度寄せられた共同募金(一般+歳末)の募金実績を合計すると、本年

度の共同募金総額は6億6,831万9,492円となり、前年を996万3,380円下回る(1.5%減)結果となった。

また、本年度の共同募金助成総額(一般募金+歳末募金)は5億4,198万8,401円となり、前年を1,369万2,334円下回る(2.5%減)結果となった。

一般募金及び歳末たすけあい、それぞれの目標(計画)額、募金実績並びに助成実績は次のとおりとなった。

(1)一般募金の計画・実績・助成

一般募金の計画(目標額)として設定した6億1,230万9,550円のうち、全道を視野に入れた活動への支援を『全道・広域用途計画』分として、全体の約4割に相当する2億5,300万円(本会「配分委員会」において原案作成の上、「推進対策委員会」での協議を経たもの)、また道内の市町村地域内で展開される活動への支援を『市町村地域用途計画』分として、3億5,930万9,550円【共同募金委員会の「審査委員会若しくはそれにかわる機関」で共同募金用途方針並びに策定要領に基づき原案作成の上、共同募金委員会設置の理事会・評議員会の決議を経て、本会「配分委員会」で審査するもの】となっている。

用途計画は、『広域用途計画』～地域福祉推進事業;7,900万円、福祉団体・福祉施設支援事業;6,400万円、また緊急災害等支援事業;2,500万円のほか、共同募金啓発運営事業;8,500万円。『市町村地域用途計画』～社協事業;2億6,074万3,480円、福祉団体事業;4,540万5,500円、福祉施設事業;281万6,000円、このほか募金経費として5,034万4,570円から構成されている。

募金実績は、10月1日からの共同募金運動において、全道各地で数多くの募金ボランティアの方々並びに協力団体・機関に募金活動に参画いただき、多くの道民、法人企業から総額4億8,911万2,074円の協力をいただいた。これは、前年比で0.5%減、一世帯あたりの金額にすると約175円という実績である。

募金方法別にみると、町内会等を中心に家庭ごとをお願いしている『戸別募金』が約2億7,564万円(全体の約56.3%)、地元商店や企業を訪問、またはダイレクトメール等をお願いする『法人募金』が約1億1,178万円(全体の約22.9%)となり、これらが募金実績全体の約8割を占めている。

その他、駅前・デパートやスーパーの入口、商店街等で呼びかける『街頭募金』が約1,255万円(全体の約2.6%)、小・中・高等学校の児童・生徒の皆さんに協力願う『学校募金』で約590万円(全体の約1.2%)、また企業や団体、官公庁等の職場で呼びかけを行う『職域募金』として約1,380万円(全体の約2.8%)、様々なチャリティイベント等を通じて、寄せられた『興行募金』が約723万円(全体の約1.5%)となり、これら以外の募金として、赤い羽根の募金箱による協力や篤志募金などで約6,218万円(全体の約12.7%)、すべてを合計すると一般募金の総額は4億8,911万2,074円(本会扱い分の1,101万793円含)となった。

▼過去3年間における募金方法別実績の推移

(単位:千円)

| 年度 | 戸別 | 街頭 | 法人 | 学校 | 職域 | 興行 | その他 | 合計 |
|----|---------|--------|---------|-------|--------|-------|--------|---------|
| 4 | 275,642 | 12,554 | 111,783 | 5,908 | 13,801 | 7,235 | 62,189 | 489,112 |
| 3 | 284,535 | 10,293 | 112,069 | 6,867 | 15,651 | 5,219 | 56,803 | 491,440 |
| 2 | 292,298 | 8,381 | 134,013 | 6,439 | 14,192 | 3,705 | 55,194 | 514,222 |

これら募金実績にもとづいた助成実績については、厳しい社会・経済情勢のもと、地域で暮らす障がい者の働く場(社会的就労という機能をもつ福祉施設や地域共同作業所など)で必要とされる作業機器・設備や搬送車両などの整備事業支援に重点をおきつつ、その他、子どもたちやひとり親世帯への支援、独居高齢者や在宅の障がい者などへの見守り訪問や各種のサービス事業等、道内各地域できめ細かく実施される福祉活動に対し、総額で3億5,716万2,184円の助成を行った。

(2)歳末たすけあい募金の計画・実績・助成

道民が新しい年をあたたかい心で迎えらるよう、12月1日より12月31日まで実施している歳末たすけあい募金の計画(目標額)は、要支援世帯(独居高齢者、低所得世帯など)へ年末見舞金を贈呈する事業を中心に、各種在宅福祉サービス等の計画を積み上げ、市町村ごとに展開される『地域歳末計画』分として、1億8,783万9,000円(歳末たすけあい実施要項に基づき、社会福祉協議会、民生委員協議会等と連携の上、共同募金委員会の「審査委員会若しくはそれにかわる機関」で原案作成のもの)の用途計画(目標額)を設定した。

『地域歳末』の用途計画は、高齢者を対象とした事業;5,996万800円、障がい児・者を対象とした事業;1,708万5,000円、児童青少年を対象とした事業;1,593万6,000円のほか、住民全般を対象とした事業;9,485万7,200円から構成されている。

募金実績としては、道内各地で歳末たすけあい運動を展開した結果、共同募金委員会が窓口となって取り扱う『地域歳末』が、1億6,467万4,504円と、前年度より約326万円の減、一世帯平均59円の実績となった。これに道共募本部が窓口となって取り扱う『道民歳末』の1,453万2,914円を加え、歳末たすけあい募金実績は1億7,920万7,418円となった。

地域歳末助成として総額1億6,703万5,217円、道民歳末助成として総額1,779万1,000円を、生活困窮世帯・長期療養患者・災害遺児家庭、道内児童福祉施設、不登校児支援施設等への見舞金をはじめ、地域における高齢者や障がい者世帯への在宅福祉サービス事業費として助成を行った。

II 本年度の主な広報事業

共同募金運動啓発キャンペーンとして、北海道を本拠地として活躍する6つのスポーツチ

ーム「北海道日本ハムファイターズ・北海道コンサドーレ札幌・エスポラーダ北海道・レバンガ北海道・ロコソラーレ・フォルティウス」の監督や選手、さらには北海道出身及び北海道にゆかりのある漫画家からも、「赤い羽根のサポーター」として宣言いただき、様々なご協力をいただいた。また、若年層に向けた取り組みとして、札幌市に本社を置くクリプトン・フューチャー・メディア(株)の協力により、札幌発のバーチャル・シンガーである「初音ミク」、あるいは、(株)ブシロード及び(株)ブシロードクリエイティブの協力により、「バンドリ！ ガールズバンドパーティ！」とのコラボレーション企画を実施し、様々な募金啓発活動を行ったほか、新たな取り組みとして、週刊少年ジャンプ(集英社刊)で連載中の堀越耕平による大人気コミックを原作としたTVアニメ「僕のヒーローアカデミア」とのタイアップでの募金活動を行い、若年層に向けた新たな取り組みを開始した。

そのほか、市町村共同募金委員会と連携し、寄付金付グッズの開発・普及(インターネット・SNS等を活用)や、企業の社会貢献活動との連携促進、チャリティーイベント等への取り組みや新たな募金方法の検討や普及など、多方面への積極的なアプローチをしながら、募金増進につなげるための様々な取り組みを進めた。

1 「赤い羽根サポーター宣言」事業

(1)道内スポーツチームとのタイアップ

北海道で活躍している6つのスポーツチームが赤い羽根のサポーターであることを宣言し、共同募金運動への啓発、募金増強に向けたキャンペーン活動を展開した。また、今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、これまでどおりの募金活動への協力が叶わないことから、クラウドファンディングサイトを利用(北海道コンサドーレ札幌のみ)しての缶バッジやクリアファイル、あるいは直筆サイン入りのレプリカユニフォームやシューズ等による支援金の協力のお願いも行った。

【各チームからの協力内容】

① 北海道日本ハムファイターズ

- ・募金活動～選手による(中島卓也選手・近藤健介選手)ヒット募金(ヒット1本につき2,000円募金)、打点募金(1打点につき1,000円募金)、出場募金(1試合出場につき1,000円募金)、このほかチーム成績募金などの実施。

◎募金総額～1,442,000円

【内訳】

・中島卓也選手による

- ・ヒット募金(ヒット1本につき2,000円) 58,000円(29本)
- ・出場募金(1試合出場につき1,000円) 68,000円(68試合)
- 計 126,000円

・近藤健介選手による

- ・ヒット募金(ヒット1本につき2,000円) 196,000円(98本)
- ・打点募金(1打点につき1,000円) 41,000円(41打点)

計 237,000円

・チーム成績募金

- ・勝利募金(チーム1勝につき1,000円) 59,000円(59勝)
- ・得点募金(1得点獲得につき1,000円) 463,000円(463点)
- ・本塁打募金(本塁打1本につき500円) 50,000円(100本)
- ・奪三振募金(三振を1つ奪うごとに500円)

507,000円(1,014個)

計 1,079,000円

- ・募金活動～ホームゲーム会場での募金活動場所の提供
- ・イベント～ファイターズファンフェスティバル(11/23)での募金贈呈
- ・グッズ作成～ポスター、缶バッジ、クリアファイル、ポチ袋、サコッシュなど
- ・素材提供～本会ホームページ、運動資材など

② 北海道コンサドーレ札幌

- ・募金活動～勝ち点募金(勝ち点1につき3,000円の募金)やゴール募金(1ゴールにつき3,000円の募金)の実施や、クルマをおくろうプロジェクトとしてクラウドファンディングを実施し、オリジナルサッカーボールや選手のレプリカユニフォーム等を募金のお礼として贈呈した。

◎募金総額～2,451,000円

【内訳】

- ・勝点募金 135,000円(45点)
- ・ゴール募金 135,000円(45ゴール)
- ・クラウドファンディング 2,181,000円

- ・募金活動～ホームゲーム会場での募金活動場所の提供
- ・イベント～上記の募金活動に連動した「クルマをおくろうプロジェクト」にもとづく福祉施設への車両の贈呈。チャリティーサッカー教室の実施。
- ・グッズ作成～ポスター、缶バッジ、クリアファイル、ステッカーなど
- ・素材提供～本会ホームページ、運動資材など

③ エスポラーダ北海道・エスポラーダ北海道イルネーヴェ

- ・募金活動～勝利募金(1勝につき1,000円募金)の実施

◎募金総額～10,000円

【内訳】

- エスポラーダ～勝利募金 7,000円(7勝)
- イルネーヴェ～勝利募金 3,000円(3勝)

- ・募金活動～ホームゲーム会場での募金活動場所の提供
- ・グッズ作成～ポスター、缶バッジ、クリアファイルなど

・素材提供～本会ホームページ、運動資材など

④ レバンガ北海道

・募金活動～勝利募金(1勝につき2,000円募金)の実施や選手の私物によるチャリティーオークションの実施

◎募金総額～454,728円

【内訳】

・勝利募金 38,000円(19勝)

・チャリティーオークション 416,728円

・募金活動～試合会場での募金活動(継続中)

・グッズ作成～ポスター、クリアファイル、缶バッジなど

・素材提供～本会ホームページや運動資材など

⑤ロコソラーレ

・勝利募金の実施(1勝につき2,000円募金)の実施(継続中)

・グッズ作成～ポスター、クリアファイルなど

・素材提供～本会ホームページや運動資材など

⑥フォルティウス

・勝利募金の実施(1勝につき2,000円募金)の実施(継続中)

・グッズ作成～ポスター、クリアファイルなど

・素材提供～本会ホームページや運動資材など

2 「piapro」とのタイアップ～初音ミク「支えあうココロ、未来へ。」プロジェクト

若年層に共同募金への興味や関心をもってもらう事を目的として、昨年に引き続き、クリプトン・フューチャー・メディア(株)が運営する各種コンテンツ投稿・交流サイト「piapro」と、本会及び札幌市共同募金委員会との共同企画により、「支えあうココロ、未来へ。」プロジェクトを実施した。具体的には、バーチャル・シンガー「初音ミク」等のキャラクターを使用したポスター等に使用するオリジナルイラストの募集と、同キャラクターのボーカロイドソフトを使用した共同募金運動応援キャンペーンソングの楽曲の一般公募を行った。採用作品については本年度の共同募金運動の啓発・募金増強のための資材(ポスター、クリアファイル、紙製組立式募金箱、しおり、缶バッジ、スマホ用音楽カードSONOCA、CM動画など)として活用した。

① イラストパネル展の開催

と き:(1回目)令和4年10月20日(木)～22日(土)

(2回目)令和4年12月23日(金)～25日(日)

ところ:札幌市・地下歩行広場 チ・カ・ホ イベントスペース

内 容:一般公募により寄せられたイラストを、期間限定でパネル展示するとともに、

会場内のモニターで応援キャンペーンソング(ミュージックビデオ)を紹介した。
また、会場内に「赤い羽根キャンペーン」として募金ブースを設けるなど赤い羽根共同募金のPR及び募金活動を行った。

3 「僕のヒーローアカデミア」とのタイアップ事業

共同募金運動啓発及び募金推進として、子どもや子育て世代に対し共同募金に関心を持っていただくための取り組みとして、「僕のヒーローアカデミア」とタイアップを行った。オリジナルのイラストを基に本年度の共同募金運動の啓発・募金増強のための資材(ポスター、クリアファイル)を制作し活用した。

4 株式会社ブシロードの協力による各種タイアップ事業

共同募金運動啓発及び募金推進として、若い世代の方々へ共同募金に関心を持っていただくための取り組みとして、(株)ブシロード及び(株)ブシロードクリエイティブの協力により、「バンドリ！ガールズバンドパーティ！」のイラストを基に共同募金運動の啓発・募金増強のための資材(クリアファイル、アクリルスタンドキーホルダー、缶バッジ等)を制作し、共同募金PR活動に活用した。

5 各種イベント開催に伴う募金ブース設置・PR活動

道内一部の地域のイベント会場などにおいて、「赤い羽根募金啓発キャンペーン」として募金ブースを設け、オリジナルグッズなどを活用しながら赤い羽根共同募金のPR・募金活動を行った。

6 飲料メーカーとのタイアップ事業

(1) 赤い羽根「自動販売機」の道内各市町村における設置推進

年間を通じての募金並びに運動啓発が可能な「赤い羽根の清涼飲料水自動販売機」について、NPO法人並びに飲料メーカーと連携を図り、赤い羽根のロゴマーク入りの自動販売機を道内各地へ設置した。

◎実施概況～21市34町2村に255台設置

寄付金総額～3,573,232円(令和3年10月～令和4年11月)

(2) 赤い羽根「寄付金付宅配飲料」の道内各市町村における導入推進

年間を通じての募金並びに運動啓発が可能な「赤い羽根の寄付金付宅配飲料」について、飲料メーカー(1社)と連携を図り、導入推進を行った。

◎実施概況～1地方6市7町、14件

寄付金総額～13,626円(令和3年10月～令和4年11月)

7 赤い羽根ご当地ピンバッジの制作

寄付者に頒布するための寄付金付きグッズとして、市町村共同募金委員会のオリジナルデザインによるご当地ピンバッジを製作した。

市町村の名前や地域で親しみのあるキャラクター、馴染み深い観光名所等とともに赤い羽根がデザインされたピンバッジを身に付けることで、赤い羽根をより身近に感じながら、地域住民の皆様が率先して「じぶんの町を良くするしくみ。」である共同募金運動を盛り上げていただいた。

令和4年度は、道内26市78町村10区の共同募金委員会にて128種類のピンバッジが製作され、募金実績の増加にも大きな効果を見せている。

8 ポスターの掲出

関係機関や協力団体の所在する建物内、公共交通機関（JR・地下鉄・市電・バスなど）の各駅や車両などに掲出されたほか、地域のお祭りやスポーツイベントなどでの啓発用としても活用した。

また、道内の社会福祉施設や行政、札幌に本社があり道内に支社がある企業や国の出先機関などに対して、それぞれ所在する地域でのポスターの掲出などへの協力依頼を行った。特に、イオン北海道、オストジャパングループ、ツルハホールディングス、真如苑等の道内系列各店においては、ポスターの掲出とあわせて店内での募金箱の設置などについても協力をいただいた。

9 マスコミ等各種媒体を利用した広報事業

(1) 新聞媒体を活用した広報の実施

広報媒体を活用したPR活動の実践として、新聞広告を掲出した。特に、共同募金運動がスタートする10月1日に掲載することで、道民の運動への関心を高め、道内各地域における募金活動をバックアップした。

(2) 道内マスコミ・記者クラブなどへの資料配布

共同募金運動開始時及び各種イベント開催時などに、道民に対する周知を行うとともに本会活動に対する理解を得るため、記者クラブなどに対して報道向け資料を配布するとともに、個々の新聞社に対しては、取材要請、記事掲載要請を行った。

(3) NHK並びに民間放送局の協力による広報

道民への共同募金運動の理解と協力を得るため、民放各局ではテレビスポット及びラジオスポットの放送を10月から実施し、NHKにも胸に羽根を付けていただくなど協力の呼びかけを行った。

(4) 街頭大型液晶ビジョンによる広報

日本パブリックビューイング協議会(JPVA)に加盟の(株)メガ・コーポレーションの協力により、札幌駅前ビジョン【札幌駅前合同ビル壁面】、HILOSHI【地下鉄南北戦大通駅改札前】、狸ビジョン【札幌狸小路商店街内街頭ビジョン】、また、(株)ホワイトカンパニーの協力により、サブローTV【札幌すすきの交差点壁面】を媒体として、共同募金のテレビスポットの放映を10月1日から実施した。

10 各種啓発イベントの実施・関係機関団体への情報提供

各種広報イベントを実施し、参加者の実体験やマスコミ各社の取材協力によって広く道民に共同募金運動への理解・協力を訴えた。

(1)「北海道知的障がい者芸術祭みんなあーと2022」への活動支援

全道の施設、養護学校、作業所などで生活をされている知的障がいのある方々が、絵画や陶芸、書道、手芸、演奏、ダンスなど様々なパフォーマンスを披露する芸術祭として開催。展示部門やステージ部門等多くの方が参加され、仲間同士の交流はもちろんのこと、知的障がいへの理解を深める一助として毎年開催されており、優秀作品には北海道共同募金会長賞を授与した。

- ・展示部門《絵画・陶芸など》～かでの2・7(札幌市)にて開催。
- ・ステージ部門《和太鼓・ピアノ・フラダンスなど》～かでの2・7(札幌市)にて開催。

(2)「赤い羽根小曲邦舞の会」への活動支援(11月5日)

社中の協賛出演により開催され、優雅で情緒豊かな日本舞踊が披露された。また、入場料の一部は共同募金に寄付をいただいた。

～北海道新聞社 道新大ホール(札幌市)にて開催。

(3)「赤い羽根」ティーボール北の甲子園大会北海道知事Cupの活動支援(11月20日)

全道から集まったチーム(知的障がい者施設・養護学校や小学生選抜チームなど)と応援、ボランティア等多くの方々が参加するティーボール(バッティングティールを使用したピッチャーのいない野球競技)大会。フィールド上に募金ブースを設置し、ボランティアの高校生による募金活動への協力を得ながら、北海道日本ハムファイターズとのコラボ募金グッズ(缶バッジやポストカード、クリアファイルなど)を用いて募金活動を行った。～札幌ドームにて開催。

(4)北海道社会福祉協議会広報誌との連携・市町村への働きかけ

北海道社会福祉協議会発行の「明るい社会」に共同募金運動の意義、助成内容、道内の取り組みなどについての記事を掲載いただいた。

また、道内各市町村広報担当部課宛てに共同募金運動PRに対する協力依頼と広報誌への掲載についての要請を行った。

11 広報先発行事の実施

(1) 赤い羽根空の第一便伝達式並びに名士による街頭募金

10月1日の共同募金運動の開始にあたり、全日本空輸(株)の協賛により、厚生労働大臣並びに中央共同募金会長のメッセージと赤い羽根が道内各空港に届けられた。札幌市では、ANA地上勤務職員により、「赤い羽根空の第一便」としてセレモニーを行い、北海道知事・札幌市長(代理)並びに本会会長らに手渡された。

(2) 道内市町村での街頭啓発活動等の実施

各市町村での実情に合わせて、街頭募金・啓発活動を実施するとともに、募金及び広報活動について企業・商店等の参加と協力を促すため、百貨店・スーパーマーケット・商店事業所等に募金箱の設置や協力をいただいた。

12 市町村域での広報(募金資材の提供・広報資材の貸出)

募金運動推進に必要とされる運動資材(赤い羽根、募金箱など)やPRのための広報資材を共同募金委員会や関係機関・団体などに提供し、地域住民や企業、報道機関などへの積極的な情報提供に活用した。

13 ホームページ等による情報提供

道民に向けた情報提供チャンネルとして、ホームページやツイッターにおいて共同募金関連ニュースや、各種イベント情報、助成金のお知らせ、寄付者に向けた“ありがとうメッセージ”、また目標額や実績額などの公表を行った。また、災害に関する情報(災害等準備金、義援金、支援金など)の他、道内スポーツチームなどの各種タイアップ事業に係るイベント活動や協力状況などを特設サイトへ掲載し、周知に努めた。

Ⅲ 顕彰の実施

1 本会会長表彰

本会の顕彰規程に基づいた会長表彰について、現在まで10年以上継続して共同募金運動に協力をいただいている方のうち特に功績のあった「奉仕者(個人)」、「地区・団体」、「従事者(共同募金役職員)」や、現在まで5年以上継続して3万円または10万円以上寄附実績のあった「個人・法人・団体」、また現在まで5年以上継続して共同募金運動に協力をいただいている学校のうち、特に功績のあった学校等に対し、表彰状並びに記念品を贈呈し、その功績を讃えた。

◎総表彰者:131件

- ・永年勤続奉仕者 89名
- ・優秀地区・団体 30団体
- ・永年勤続従事者 2名
- ・高額寄付者 1件(個人)
- ・優秀学校 9校

2 中央共同募金会会長表彰

中央共同募金会における顕彰規程に基づいた会長表彰について、奉仕功労者(年齢が概ね65歳以上の方で、20年以上奉仕(継続していなくても可)され、過去に道共募会長表彰(但し、特別顕彰及び功績者感謝はこれに含まない)を受けており、現在も活躍中のもの)、優秀地区・団体(過去10年間にわたり、実績額の世帯平均額が、北海道平均額を上回り、かつ全道の世帯平均を上回っている共募委員会、従事功労者(共募委員会)の職員の方で、在職15年以上、年齢50歳以上の共同募金運動に従事されたもの)等に対し、表彰状並びに記念品を贈呈し、その功績を讃えた。

◎中央共同募金会会長表彰総表彰者:12件

- ・奉仕功労者～7名
- ・優秀地区・団体～3団体
- ・従事功労者～2名

3 高額寄付者に対する厚生労働大臣感謝状

高額寄付者(個人100万円以上500万円未満、法人・団体300万円以上1,000万円未満)に対する感謝では、全市町村共同募金委員会あてに推薦依頼を行った。

4 共同募金運動功績者に対する感謝状

今年度の共同募金運動に功績のあった個人並びに団体に対して、次のとおり感謝状と記念品を贈呈した。

◎総受賞者:105件

- ・個人 19名
- ・団体・学校 86件

IV 緊急支援及び災害対応

1 災害見舞金の助成

道内各市町村における小規模な災害について、全壊・半壊など被害にあっ

た方や災害事故により亡くなった方(世帯)に対し、災害見舞金(死亡～1件(世帯)2万円、全壊～2万円、半壊～1万円)を贈呈した。

◎令和5年3月末現在:169件・268万円

2 災害被災地(道内外)への支援

今年度は、特に大雨による災害により、土砂災害・河川氾濫等それぞれの地域に多大な損害を被り、災害救助法が適用されたなどのことにより、共同募金会では国内(北海道から沖縄まで)における被災者救援を目的とした義援金募集の周知及び受付を行った。

| 県名 | 名称 | 受付期間 | 義援金 受入状況(円) |
|-----|----------------------------|---------------------|---------------------------------------------------|
| 福島県 | 令和4年3月福島県沖地震災害義援金 | R4/3/22～ 6/30 | 《本会扱い》 27,223 《全国規模》 147,767,594 |
| 宮城県 | 令和4年7月15日から の大雨に係る災害義援金 | R4/8/8～ 10/31 | 《本会扱い》 31,790 《全国規模》 69,934,331 |
| 福井県 | 令和4年8月大雨福井県 災害義援金 | R4/8/10～ 9/30 | 《本会扱い》 0 《全国規模》 45,551,029 |
| 山形県 | 令和4年8月山形県大雨 災害義援金 | R4/8/12～ 12/28 | 《本会扱い》 0 《全国規模》 75,019,083 |
| 新潟県 | 令和4年8月新潟県大雨 災害義援金 | R4/8/12～ R5/3/31 | 《本会扱い》 0 《全国規模》 105,745,799 【R4/12/7】 |
| 石川県 | 石川県8月大雨災害義 援金 | R4/8/12～ R5/3/31 | 《本会扱い》 0 《全国規模》 105,318,304 |
| 青森県 | 令和4年8月大雨災害青 森県義援金 | R4/8/31～ 12/28 | 《本会扱い》 0 《全国規模》 227,836,674 |

| | | | |
|-----|--------------------------------|--------------------|--------------------------------------------------|
| 静岡県 | 令和4年台風第15号災害静岡県義援金 | R4/9/27～ 12/28 | 《本会扱い》 0 《全国規模》 369,989,186 |
| 東京都 | 令和4年8月3日からの大雨災害義援金 (中央共募扱い) | R4/8/17～ R5/4/7 | 《本会扱い》 148,500 【R4/11/15】 《全国規模》 集計中 |

V 各種民間社会福祉資金の総合調整

1 共同募金以外の特定指定寄付金の受け入れ並びに助成について

都道府県の共同募金会が運用を任されている「共同募金以外の特定・指定寄付金制度」は、一定の要件を満たすことを条件に、寄付者が特定の助成を受ける者(社会福祉法人等の経営する福祉施設)と寄付金の使途を指定して都道府県共同募金会を通じての寄付が可能となる制度。

寄付金の受け入れ並びに助成にあたっては、本会並びに中央共同募金会での審査が必要とされ、個別案件ごとに使途内容の緊急性・確実性、寄付者と助成を受ける者との関係(身分関係や契約関係など)について審査されるが、承認となった場合、寄付者には共同募金への寄付同様、税制上の優遇措置が適用となる。

寄付金の使途については施設建設資金や建設時の借入金の償還、車両の購入など、施設運営にあたって緊急かつ重要なものに活用されている。

本年度は、2法人から1億485万3,074円の寄付金を受け入れ、2社会福祉法人に対し、1億320万3,808円の助成を行った。

2 寄託寄付金の受け入れ並びに助成について

共同募金以外の寄付金として本会に寄せられる「寄託寄付金」については、企業やその社員が全社的な取り組みにより売り上げの一部や有志による寄付金を本会に寄託し、これを受けた本会がその助成調整能力をもって助成先を寄付者に提案することにより、寄付者の信託にこたえ、地域における社会貢献への取り組みを側面から支援するものである。

本年度については9件の寄付者から計156万9,890円が寄せられ、道内にある15件の福祉施設・団体等に助成を行い、寄付者の希望によりそれぞれ施設利用者の直接処遇に関わる機器や備品の購入に充てられた。

3 公益信託助成金の助成について

本会が受託者となり、助成事業を実施している3つの公益信託について、令和4年度における各公益信託財産の運用果実により5個人4団体施設に対し、総額83万円の助成を行った。

《助成内訳》

i) グレイパワー前田基金

高齢者の生きがい事業として、1団体に対して、30万円を助成した。

ii) 谷本康・昌平養護施設児童就学援助基金

養護施設児童の入学金援助事業として、2施設の5人の児童に対して、43万円を助

- 成した。
- iii) 荒木身体障がい者スポーツ基金
身体障がい者のスポーツ活動事業として、1団体に10万円を助成した。

4 中央競馬馬主社会福祉財団助成事業への協力

中央競馬馬主社会福祉財団より業務委託を受けている同財団による福祉施設等の整備資金助成事業について、令和4年7月8日、本会推薦委員会を行い、札幌・函館馬主協会にそれぞれ推薦をした結果、道内32施設(社会福祉法人やNPO法人等)に対し、6,077万円の助成が決定された。

5 日本テレビ 24 時間チャリティー委員会への業務協力

8月に行われた「日本テレビ系24時間テレビチャリティー委員会」に申請のあった入浴乾燥車、リフト車両等北海道内分の事業について、札幌テレビ放送と調整の上、推薦業務を行った。

V 会務の運営(法人運営・専門委員会)

1 法人運営

(1) 理事会・評議員会の開催

① 理事会

1) 令和4年度第1回理事会

と き: 令和4年6月6日

と ころ: 札幌市・道民活動センタービル(かでの2・7)

内 容: 令和3年度事業報告及び決算報告、令和4年度共同募金目標額、諸規程の改正、評議員候補者の選定、配分委員会委員の補欠選任、本会専門委員会委員の選任、評議員会の召集と議事内容等を付議の結果、原案のとおり承認を得られた。

2) 令和4年度第2回理事会

と き: 令和5年3月20日

と ころ: 札幌市・道民活動センタービル(かでの2・7)

内 容: 令和4年度共同募金配分及び共同募金以外の寄付金による配分、令和5年度事業計画及び収支予算、社会福祉施設総合損害補償制度への加入、理事候補者(補欠)の選定、評議員候補者(補欠)の選定、評議員会の召集と議事内容等を付議の結果、原案のとおり承認を得られた。

② 評議員会

1) 令和4年度第1回評議員会(書面審議)

と き: 令和4年6月21日

内 容: 令和3年度事業報告及び決算報告、令和4年度共同募金目標額、配
分委員会委員の補欠選任等を付議の結果、原案のとおり承認を得られ
た。

2) 令和4年度第2回評議員会

と き: 令和5年3月29日

ところ: 札幌市・北海道第2水産ビル

内 容: 令和4年度共同募金配分及び共同募金以外の寄付金による配分、令
和5年度事業計画及び収支予算等を付議の結果、原案のとおり承認を得
られた。

(2) 評議員選任・解任委員会の開催

本会評議員の選任について協議するため、次のとおり評議員選任・解任委員会を
開催した。

(第1回)

と き: 令和4年6月6日

ところ: 札幌市・道民活動センタービル(かでの2・7)

内 容: 評議員の選任について付議の結果、原案のとおり承認を得られた。

(第2回)

と き: 令和5年3月20日

ところ: 札幌市・道民活動センタービル(かでの2・7)

内 容: 評議員の選任について付議の結果、原案のとおり承認を得られた。

(3) 正副会長会議の開催

本会事業の執行並びに会務運営について協議するため、次のとおり正副会長会議
を開催した。

(第1回-オンライン-)

と き: 令和4年5月20日

内 容: 令和4年度第1回理事会・評議員会の議事や各種会議等開催日程に
ついて、それぞれ協議がなされた。

(第2回)

と き: 令和4年11月22日

ところ: 札幌市・道民活動センタービル(かでの2・7)

内 容: 令和4年度10月期事業報告や令和5年度事業実施計画骨子等につ
いて、それぞれ協議がなされた。

(第3回)

と き: 令和5年3月20日

ところ:札幌市・北海道立道民活動センター(かでの2・7)

内 容:第2回理事会・第2回評議員会の議事や新年度の各種会議等開催日程について、それぞれ確認がなされた。

(4) 監事(監事監査/外部監査)の実施

本会業務の執行状況及び法人財産の状況等について監査するため、次のとおり監事監査を開催し、本会における事業運営状況並びに予算執行、会計経理事務の処理状況等について監査の結果、いずれも適正に処理されていると認められた。

さらに、自主的に公認会計士事務所による外部監査を令和4年5月11日、令和5年3月13日に札幌市・道民活動振興センター(かでの2・7)で受けた。

【監事監査】

(第1回)

と き:令和4年5月12日

ところ:札幌市・北海道立道民活動センター(かでの2・7)

内 容:令和3年度事業及び決算報告についての監査を実施した結果、適正に処理されていると認められた。

(第2回)

と き:令和4年11月16日

ところ:札幌市・北海道立道民活動センター(かでの2・7)

内 容:令和4年度10月期事業及び予算執行状況についての監査を実施した結果、適正に処理されていると認められた。

①監査事項

- ・令和4年度10月期事業報告について
- ・令和4年度10月期予算執行状況について

(第3回)

と き:令和5年3月15日

ところ:札幌市・北海道立道民活動センター(かでの2・7)

内 容:令和4年度事業実施状況及び決算見込、令和5年度事業計画及び収支予算等についての監査を実施した結果、適正に処理されていると認められた。

①監査事項

- ・令和4年度事業実施状況について
- ・令和4年度決算見込について
- ・令和5年度事業計画について
- ・令和5年度収支予算について

2 専門委員会の開催

(1)配分委員会の開催

共同募金会が取扱う寄付金の助成計画の立案並びに申請事業に係る助成審査、答申案の策定を執り行う期間として、本会会長が委嘱した委員10名により構成する「配分委員会」(社会福祉法第115条に規定)を下記のとおり開催し、民間の特質を生かし弾力的かつ即応性のある助成を実現するべく、今後の助成方針並びに助成対象事業の採否等についての検討協議を行った。

(第1回)

と き:令和4年5月19日

ところ:札幌市・道民活動センタービル(かでの2・7)

内 容:先進的・開拓的福祉活動支援事業のうち一般公募受付による一赤い羽根共同募金助成金一令和4年度第1次助成、令和4年度共同募金目標額等について、協議がなされた。

(第2回)

と き:令和4年11月21日

ところ:札幌市・道民活動センタービル(かでの2・7)

内 容:先進的・開拓的福祉活動支援事業のうち一般公募受付による一赤い羽根共同募金助成金一令和4年度第2次助成、令和5年度共同募金助成方針、歳末たすけあい募金による助成、令和4年度赤い羽根ポスト・コロナ(新型コロナウイルス)社会に向けた福祉活動応援キャンペーンによる追加配分決定等について協議がなされた。

(第3回)

と き:令和5年3月9日

ところ:札幌市・道民活動センタービル(かでの2・7)

内 容:一般募金や歳末募金による令和4年度実施事業に係る配分決定額をはじめ、共同募金以外の本会に寄託された寄付金の配分などについて協議がなされた。

(2) 広報企画委員会の開催

北海道における共同募金運動の広報活動及び広報に関する各種行事の計画・立案を行うことを目的として、本会会長が委嘱した委員4名により構成する広報企画委員会を下記のとおり開催した。

(第1回)

と き:令和4年6月16日

ところ:札幌市・道民活動センタービル(かでの2・7)

内 容:新聞記事掲載内容(結果報告)、piapro とのコラボプロジェクト投稿作品による採用イラストの選考等について、協議がなされた。

(第2回-書面-)

と き:令和4年9月22日

内 容:新聞記事掲載内容(運動開始)について、協議がなされた。

(3) 共同募金運動推進対策委員会の開催

共同募金運動の円滑な推進を図るため、共同募金委員会事務局長のうちから本
会会長が委嘱した委員9名により構成する推進対策委員会を下記のとおり開催し、
募金計画等に関する事項を協議した。

(第1回)

と き: 令和4年12月2日

ところ: 札幌市・道民活動センタービル(かでの2・7)

内容: 令和5年度における共同募金事業実施計画の骨子(案)、共同募金使途
(助成)方針などについて、協議がなされた。

① 報告事項

- ・ 令和4年度共同募金中間実績について
- ・ 市町村共募関係者研究協議会の協議経過・主な意見について
- ・ 令和4年度赤い羽根「ポスト・コロナ(新型感染症)」社会に向けた福祉活動
応援キャンペーンによる助成状況について

② 協議事項

- ・ 令和5年度共同募金事業実施計画の骨子(案)について
- ・ 令和5年度市町村共募関連の各種研修会開催概要(案)について
- ・ 令和5年度共同募金使途(助成)方針について(令和5年度共同募金全
道・広域使途(助成)計画総括表(案)及び令和5年度共同募金目標額
(広域)市・地方共募別一覧表(案))

(4) 民間社会福祉資金要望事業推薦委員会の開催

民間社会福祉事業の推進を図るため、本会が業務委託を受けている中央競馬馬
主社会福祉財団助成金の要望事業内容を審査し、推薦することを目的として、本会
会長が委嘱した委員7名により構成する民間社会福祉資金要望推薦委員会を下記
のとおり開催した。

(第1回)

と き: 令和4年7月8日

ところ: 札幌市・道民活動センタービル(かでの2・7)

内容: 令和4年度中央競馬馬主社会福祉財団助成金申請事業計画の推薦に
ついて、協議がなされた。

(5) 歳末たすけあい運動推進会議の開催

「歳末たすけあい運動」実施要項に基づき、北海道内における歳末たすけあい運
動の円滑な実施を図るため、運動の推進方方策並びに寄付金の助成指針等につい
て検討並びに協議を行うことを目的として、歳末たすけあい運動の実施主体、後援
団体構成員から選出した委員5名により構成する歳末たすけあい運動推進会議を
下記のとおり開催した。

(第1回)

と き:令和4年11月1日

ところ:札幌市・北海道立道民活動センター(かでの2・7)

内 容:令和3年度歳末たすけあい収入・助成状況、歳末たすけあい運動実施要項、令和4年度道民歳末たすけあい助成概要等について、協議がなされた。

(第2回)

と き:令和4年12月19日

ところ:札幌市・北海道立道民活動センター(かでの2・7)

内 容:道民歳末たすけあいの第一次助成について協議がなされた。

①報告事項

・令和4年度道民歳末たすけあいの収入状況について

②協議事項

・令和4年度道民歳末たすけあいの第1次助成について

(第3回)

と き:令和5年2月21日

内容:道民歳末たすけあいの第二次助成及び地域歳末たすけあい助成について協議がなされた。

①報告事項

・令和4年度道民歳末たすけあいの収入状況について

・令和4年度地域歳末たすけあいの収入状況について

②協議事項

・令和4年度道民歳末たすけあいの第2次助成について

・令和4年度地域歳末たすけあいの助成について

(6) 公益信託運営委員会の開催

本会が受託者となっている4つの公益信託について、信託財産の適正な運営を図るため、また助成を要望する個人・団体・施設等から提出された計画を審査し、推薦・協議することを目的に開催した。

(第1回-書面-)

と き:令和4年6月3日

内容:令和3年度事業報告及び収支決算などについて、審議がなされた。

(第2回)

と き:令和5年3月10日

ところ:札幌市・北海道立道民活動センター(かでの2・7)

内容:令和4年度助成決定及び補正予算、令和5年度事業計画及び予算等について、審議がなされた。

③ 共同募金委員会との連携強化と運営整備の促進

(1) 町村共同募金委員会関係者研究協議会の開催

本会と町村共同募金委員会との連携をより円滑にするため、道内を9つのブロックに区分し、幹事地方共同募金委員会のセッティングにより、役員並びに職員を対象とした研究協議会を開催した。

| 開催日 | 開催地 | 会議（行事）名 |
|-------|-------|---------------------------------------|
| 7月12日 | 日高町 | 胆振・日高管内ブロック町村共同募金委員会関係者研究協議会 |
| 7月21日 | 中標津町 | 釧路・根室管内ブロック町村共同募金委員会関係者研究協議会 |
| 8月5日 | オンライン | 空知管内ブロック町村共同募金委員会関係者研究協議会 |
| 8月25日 | 音更町 | 十勝管内ブロック町村共同募金委員会関係者研究協議会 |
| 9月6日 | 倶知安町 | 石狩・後志管内ブロック町村共同募金委員会関係者研究協議会 |
| 9月13日 | 遠軽町 | 網走管内ブロック町村共同募金委員会関係者研究協議会 |
| 9月20日 | オンライン | 渡島・檜山・上川・留萌・宗谷管内ブロック町村共同募金委員会関係者研究協議会 |

(2) 令和4年度共同募金実務担当者 新任研修会の開催(オンライン)

市町村共募委員会における事務の円滑な執行を目的として、共同募金実務担当者着任1～3年目の新任担当者を対象としたグループワークを開催した。

と き: 令和4年6月28日

内 容:

- ①共同募金概要説明
- ②グループワーク
- ・自己紹介・質疑応答・意見交換

(3) 令和4年度市共同募金委員会関係者研究協議会の開催(オンライン)

市共同募金委員会関係者(役員・事務局長並びに事務局職員)を対象に、共同募金運動の実施に向けた取り組み・基礎的情報の共有・会計業務における内部統制など、今後の運動推進に向けた取り組みや諸課題についても話し合う機会とした研究協議会を開催した。

と き: 令和4年8月30日

内 容:

- ①基調説明

- ・共同募金をとりまく情勢について

②研究協議事項

- ・令和4年度共同募金運動の実施に向けた取り組みについて
- ・共同募金に関する基礎的情報の共有について
- ・会計業務における内部統制について

(4) 令和4年度共同募金会実務担当者研究協議会の開催(オンライン)

道内全市区町村共同募金委員会実務担当者職員を対象に、募金・広報など、実務場面で必要な内容を中心に、諸課題について話し合う機会とする研究協議会を開催した。

と き: 令和4年9月5日

内 容:

①基調説明

- ・共同募金をとりまく情勢について

②研修・研究協議

- ・共同募金に関する基礎的情報の共有について
- ・共同募金実務の諸手続き等について
- ・共同募金運動推進に向けた市町村共募の取り組みについて

(5) 地方・市共同募金委員会事務局長連絡協議会の開催

各共同募金委員会が緊密な連絡のもとに協調した運動を推進するため、事務局長を対象とした連絡協議会を開催した。

と き: 令和4年12月15日

ところ: 札幌市・北海道第二水産ビル

内 容:

①報告事項

- ・令和4年度共同募金中間実績について
- ・令和4年度市町村共募関係者研究協議会の協議内容について
- ・令和4年度赤い羽根ポストコロナ(新型コロナウイルス)「社会に向けた福祉活動応援キャンペーンによる助成の実施状況について

②協議事項

- ・令和5年度共同募金事業計画について
- ・令和5年度共同募金使途(助成)方針について

(6) 道内外への研修・連絡会、その他会合等

- ①道内共同募金委員会などより派遣要請のあった会議、関係機関団体主催行事などへの出席

下記の会議等に本会役職員を派遣し、運動のPRと強化に努めた。

| 開催期日 | 開催地 | 会議(行事)名 |
|-----------|------|---------------------------|
| 4月3・4日 | 札幌市 | レバンガ北海道公式戦(募金PR活動) |
| 4月16・17日 | 札幌市 | レバンガ北海道公式戦(募金PR活動) |
| 4月23・24日 | 札幌市 | レバンガ北海道公式戦(募金PR活動) |
| 5月4日 | 札幌市 | レバンガ北海道公式戦(募金PR活動) |
| 5月7・8日 | 札幌市 | レバンガ北海道公式戦(募金PR活動) |
| 5月25日 | 札幌市 | 北海道コンサドーレ札幌公式戦(募金PR活動) |
| 5月28・29日 | 札幌市 | 北海道日本ハムファイターズ公式戦(募金PR活動) |
| 6月9日 | 上ノ国町 | 令和4年度上ノ国町共同募金委員会研修会 |
| 6月9日 | 札幌市 | 札幌学院大学講義 |
| 6月18・19日 | 札幌市 | 北海道日本ハムファイターズ公式戦(募金PR活動) |
| 6月18日 | 札幌市 | レバンガ北海道折茂選手引退試合(募金PR活動) |
| 6月26日 | 札幌市 | 北海道コンサドーレ札幌公式戦(募金PR活動) |
| 7月17・18日 | 札幌市 | 北海道日本ハムファイターズ公式戦(募金PR活動) |
| 7月24日 | 札幌市 | エスポラーダ北海道公式戦(募金PR活動) |
| 7月25日 | 南幌町 | 南幌町民生委員研修会 |
| 7月30日 | 札幌市 | 北海道コンサドーレ札幌公式戦(募金PR活動) |
| 8月2・3日 | 旭川市 | 北海道日本ハムファイターズ公式戦(募金PR活動) |
| 8月5日 | 旭川市 | 上川地方共同募金委員会評議員会 |
| 8月9日 | 旭川市 | 旭川市共同募金委員会研修会 |
| 8月11日 | 札幌市 | 北海道日本ハムファイターズ公式戦(募金PR活動) |
| 8月20日 | 札幌市 | 北海道コンサドーレ札幌公式戦(募金PR活動) |
| 8月23日 | 釧路市 | 北海道日本ハムファイターズ公式戦(募金PR活動) |
| 8月24日 | 帯広市 | 北海道日本ハムファイターズ公式戦(募金PR活動) |
| 8月27・28日 | 札幌市 | 北海道日本ハムファイターズ公式戦(募金PR活動) |
| 8月27日 | 札幌市 | エスポラーダ北海道公式戦(募金PR活動) |
| 9月8日 | 津別町 | 津別町共同募金委員会研修会 |
| 9月11日 | 札幌市 | 北海道コンサドーレ札幌公式戦(募金PR活動) |
| 9月13日 | 遠軽町 | 遠軽町共同募金委員会大口募金担当者会議 |
| 9月15日 | 中標津町 | 根室管内共同募金委員会担当者連絡協議会 |
| 9月15日 | 帯広市 | 帯広市共同募金委員会研修会 |
| 9月20日 | 白老町 | 白老町共同募金委員会研修会 |
| 9月24・25日 | 札幌市 | 北海道日本ハムファイターズ公式戦(募金PR活動) |
| 10月10日 | 当別町 | 当別町共募チャリティーとうべつ芸能フェス 2022 |
| 10月13日 | 厚沢部町 | 桧山管内共同募金委員会研修会 |
| 10月15・16日 | 札幌市 | レバンガ北海道公式戦(募金PR活動) |
| 10月21日 | 北竜町 | 北竜町共同募金委員会研修会 |
| 10月24日 | 沼田町 | 沼田町共同募金委員会研修会 |
| 10月26日 | 札幌市 | 札幌市社協ボランティア活動センター講座 |
| 11月5日 | 札幌市 | 北海道コンサドーレ札幌公式戦(募金PR活動) |
| 11月13日 | 帯広市 | エスポラーダ北海道公式戦(募金PR活動) |
| 11月19・20日 | 帯広市 | レバンガ北海道公式戦(募金PR活動) |
| 11月20日 | 札幌市 | エスポラーダ北海道公式戦(募金PR活動) |
| 11月30日 | 札幌市 | レバンガ北海道公式戦(募金PR活動) |
| 12月3・4日 | 札幌市 | レバンガ北海道公式戦(募金PR活動) |
| 12月10日 | 札幌市 | エスポラーダ北海道公式戦(募金PR活動) |

| | | |
|----------------|-----|----------------------|
| 12月17・18日 | 札幌市 | レバンガ北海道公式戦(募金PR活動) |
| 12月30・31日 | 札幌市 | レバンガ北海道公式戦(募金PR活動) |
| 1月18日 | 札幌市 | レバンガ北海道公式戦(募金PR活動) |
| 1月21・22日 | 札幌市 | レバンガ北海道公式戦(募金PR活動) |
| 1月28・29日 | 札幌市 | レバンガ北海道公式戦(募金PR活動) |
| 2月4日～ 2月11日 | 札幌市 | さっぽろ雪まつり(募金PR活動) |
| 2月5日 | 札幌市 | エスポラーダ北海道公式戦(募金PR活動) |
| 2月19日 | 札幌市 | 札幌市共募赤い羽根共同募金未来懇談会 |
| 3月8日 | 札幌市 | レバンガ北海道公式戦(募金PR活動) |
| 3月17・18日 | 札幌市 | レバンガ北海道公式戦(募金PR活動) |
| 3月22日 | 札幌市 | レバンガ北海道公式戦(募金PR活動) |

② 全国・他都府県関係諸会議への参加

中央共同募金会及び東北・北海道ブロック、他都府県等で開催の下記の関係諸会議に役職員を派遣し、事業の研究に努めた。

| 開催期日 | 開催地 | 会議(行事)名 |
|-----------|-----|-------------------------------------|
| 4月21・22日 | 東京都 | 都道府県共同募金会職員研修会(OL) |
| 5月11日 | 東京都 | 中央共同募金会企画推進委員会懇談会(OL) |
| 6月17日 | 東京都 | 中央共同募金会評議員会(OL) |
| 7月5・6日 | 東京都 | 赤い羽根全国ミーティング(OL) |
| 7月14・15日 | 東京都 | 都道府県共同募金会常務理事・事務局長会議(OL) |
| 8月5日 | 東京都 | 中央共同募金会評議員会(OL) |
| 10月31日 | 東京都 | 中央共同募金会第2回企画推進委員会 |
| 11月17・18日 | 東京都 | 都道府県共同募金会職員研修会(OL) |
| 11月25日 | 岩手県 | 令和4年度北海道・東北ブロック共同募金会業務主幹職員連絡協議会(OL) |
| 12月16日 | 東京都 | 令和4年度第1回共同募金会ブロック幹事連絡協議会 |
| 1月18日 | | 北海道・東北ブロック社協・共募連絡協議会事務局長合同会議分散会 |
| 1月31日 | 東京都 | 第3回中央共同募金会企画・推進委員会 |
| 2月10日 | 東京都 | 令和4年度第2回都道府県共同募金会常務理事・事務局長会議(OL) |
| 3月22日 | 東京都 | 第4回中央共同募金会企画・推進委員会 |

③ 関係機関・団体との連絡協調及び共同募金運動への協力

そのほか関係機関・団体の大会をはじめ、理事会・評議員会、研究協議会、研修会、連絡会議等への職員派遣や、慶弔の時に於ける祝電送付等、連絡の強化に努めた。

V 新型コロナウイルス感染拡大への対応

1 赤い羽根 新型コロナ感染下の福祉活動応援全国キャンペーンによる助成の実施

新型コロナウイルス感染症の流行に起因した困りごとを抱える人たちを支援することを目的として、地域に密着して行われる食支援、学習支援、居場所支援、相談支援など、多様な生活支援活動に広く助成するべく、中央共同募金会並びに都道府県共同募金会との協働実施による「赤い羽根 ポスト・コロナ(新型感染症)社会に向けた福祉活動応援キャンペーン～地域に密着した多様な生活支援活動を応援～」を実施し、15件、約283万円の助成を行った。

VI 公告・公表等

1 公告一目標額の届出、運動実績の公表

共同募金目標額については、全道的視野で立案する道地域使途計画並びに市町村毎の地域で立案される市町村地域使途計画を本会設置の配分委員会の答申に基づき、理事会・評議員会で審議のうえ承認された。

そのあと、中央共同募金会へ届出(報告)を行うとともに、本会掲示場に掲示をし、全道版での新聞広告や北海道社会福祉協議会発行の福祉情報紙、また各共募委員会で発行の広報紙等に目標額や実績額、助成(支援)先の紹介等を掲載し、広く道民に公表した。